

**広島県商工労働局産業振興施策公募型プロポーザル選定委員会**  
**(令和5年度広島県海外スタートアップ等連携実証プロジェクト創出業務)**  
**議事要旨**

〔 令和5年3月14日  
イノベーション推進チーム 〕

令和5年度広島県海外スタートアップ等連携実証プロジェクト創出業務公募型プロポーザルについて、広島県商工労働局産業振興施策公募型プロポーザル選定委員会（以下「産業振興部会」）での審査を踏まえ、次のとおり候補者を選定した。

**1 候補者**

候補者	株式会社リバネス
代表者	代表取締役社長 高橋 修一郎
住所	東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル5階
契約期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日（予定）
申請提案額	24,998,747円（予定）

**【選定理由】**

産業振興部会において、応募者から提出された事業提案書など、提案内容を審査基準に基づき審査を行った。その結果、重点項目とした「支援先企業の選定」「プログラムの内容」「連携プロジェクトをブラッシュアップするハンズオン支援」「実証プロジェクトの実効性」において、  
①ビジネスにつながる県内企業と海外スタートアップのマッチングの見込  
②経営層を巻き込んだ取組が随所にみられるか  
などが、最も優れていると評価された。

**2 会議の概要**

開催日時	令和5年3月8日（水）13:00～15:00
開催場所	広島県庁7階東館商工相談室
議題	令和5年度広島県海外スタートアップ等連携実証プロジェクト創出業務の公募型プロポーザル審査

### 3 応募者（順番は申請順）

応募者名	所在地	代表者名
A 株式会社アドライト	東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル6階	木村 忠昭
B 株式会社リバネス	東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル5階	高橋 修一郎

### 4 令和5年度広島県海外スタートアップ等連携実証プロジェクト創出業務公募型プロポーザル候補者選定状況

#### (1) 広島県商工労働局産業振興施策公募型プロポーザル選定委員会

委員長	空田 賢治（広島県商工労働局 総括官（新産業創出））
委員	保科 聡宏（独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）広島貿易情報センター 所長） 蔵田 秀和（公益財団法人ひろしま産業振興機構 常務理事） 門永 吉章（広島県商工労働局イノベーション推進チーム担当課長（イノベーション環境整備）） 増廣 浩二（広島県商工労働局イノベーション推進チーム担当課長（環境エネルギー産業集積促進））

#### (2) 審査基準及び結果等

県は、環境・エネルギー分野の海外展開支援を推進しており、これまで以上に、県内企業の海外でのビジネス創出に結びつく具体的な支援が必要であるという観点から、「③支援先企業の選定」「④プログラムの内容」「⑥連携プロジェクトをブラッシュアップするハンズオン支援」「⑧実証プロジェクトの実効性」に重点をおいて審査を行った。

審査基準	審査の項目	配点 ウエイト	応募者 (※応募者名は3のとおり)		評価及び選定理由
			A	B	
①業務の実施体制	人員配置や役割分担等、本業務に関する運営方法は、適切かつ実行力のあるものであるか。	60	33	45	Aは、1つのチームで体制が構成されていない点が評価されなかった。 Bは技術に明るい人材や県内・海外双方で企業対応チームが編成されており、適切なマッチングやフォローが期待できることが評価された。

②支援先企業の募集	本プログラムに参加する候補となる企業の選定基準は、本事業の成果達成に向け適切か？ また、その選定基準を満たす企業をリスト化し、20社以上の企業に訪問が可能な基準となっているか？	40	26	32	Aは大手を含む県内企業へのアプローチ方法の具体性に欠けると評価された。 Bは海外スタートアップを招聘したセミナーなど、県内企業が関心を持ちそうなメニューが提案されていることが評価された。
③支援先企業の選定	本事業の成果である海外での新規事業創出に向け、プログラムに参加する企業の数は適切か？ また、参加企業目標数値を達成するための具体的な手法は、その目標値を達成することが期待できる提案となっているか？	80	44	52	Aは分野を絞っているものの、具体的なマッチングイメージが不透明で、事業目標の達成に不安があると評価された。 Bは、参加企業の募集時から経営層へのアプローチをかけることとしており、社の方針として事業参加する企業の選定が期待できることが評価された。
④プログラムの内容	提案されたプログラムは、実現可能なスケジュールに基づいており、3件の実証プロジェクトの創出が期待できるものとなっているか。	120	54	78	Aはハンズオン支援に向けた体制に不安があり、県内企業とのマッチング創出の可能性が低いと評価された。 Bはプログラム全体について、魅力がある内容であることが評価された。
⑤県内企業とスタートアップとのマッチング	県内企業とスタートアップのマッチングの確度を高めるために、有効な手法が提案されているか。	60	39	51	Aは一般的な手法に留まっており、新規性に乏しいと評価された。 Bは自社の海外ネットワークや、県内と海外担当との連携による確度の高いマッチングへの期待が評価された。
⑥連携プロジェクトをブラッシュアップするハンズオン支援	実証プロジェクトのブラッシュアップのために、有効なハンズオン支援の手法が提案されているか。	80	52	72	Aは、きめ細かいハンズオン支援を予定されている点が評価された。 Bは、多様性のある専門スタッフによるチームでの支援や、県内企業の現地訪問の提案が評価された。
⑦仕様書の内容	設計仕様書の構成内容は、支援対象企業や海外スタートアップ等が継続的に取り組むための判断を行う上で十分な内容となっているか。	60	39	45	
⑧実証プロジェクトの実効性	実証プロジェクトが実際に支援対象企業内で事業として検討されることが期待できるような工夫が図られているか。	80	48	60	Aは経営層へのアプローチの具体的な取組が不透明であると評価された。 Bは経営層の巻き込みを常に意識した提案内容になっており、継続性が期待できる点が評価された。

⑨協議会ウェブサイトやSNS等の活用による情報発信／イベントの開催	協議会を巻き込んだ情報発信等により，県内企業の新規事業創出や海外展開に対するマインドの醸成が期待できる内容となっているか。	60	39	39	
⑩再現性	本プログラムが終了した後も，県内企業が継続的に海外のスタートアップ等と連携して新規事業創出に向けて自走できるような効果的な仕掛けが提案されているか。	40	26	26	
⑪予算及び費内訳	予算額及び経費の内訳に妥当性があるか。	40	26	28	
合 計 点 数		720	426	528	

※本結果は，5名の委員の合計点によるものである。